

(2) 介護等体験を終えて 〈2〉

“笑顔が見たい” “少しでも役に立ちたい” という気持ちが呼びおこされた体験

文学部 3年 I.M

7日間の介護等体験のうち、初めの5日間は老人デイサービスで体験を行いました。緊張のあまり初日は自分から利用者の方に声掛けすることが出来ませんでした。利用者の方から気さくに話し掛けてくださり、とても嬉しかったです。また、会話の中でデイサービスを利用するようになったきっかけや、実際に利用してみてもどのような点が良かったか、悪かったかを聞くことが出来、大変勉強になりました。私も一昨年まで自宅で祖父の介護をしており、自分の生活もあるなかで祖父の食事やトイレの介助をするとなるとどうしても忙しく、1つひとつの動作が雑になってしまいました。しかし、施設を利用する方々を見ていると、食事の時間をどんなに楽しみにしておられるかや、トイレの世話をしてもらっていることに対して恥ずかしく思っておられることを知り、祖父に対して投げやりな気持ちになっていた自分をとても情けなく思いました。介護の仕事は普通の企業とは違い、達成度を数値で表すことが出来ません。その分、利用者1人ひとりに心から寄り添い、気持ちを共有することがとても重要になると思います。仕事を“こなす”気持ちではなく、“一緒に行く”気持ちで真剣に取り組んではじめて利用者の方の笑顔が見られたり、感謝されたりといった本当の達成感を味わうことが出来ると実感しました。

後半の2日間は特別支援学校で体験をしました。デイサービスでは普通に会話出来る方が多く、「意思伝達」で困ることがほとんどあ

りませんでした。特別支援学校の生徒さんは話すことが難しいばかりか、身体を動かすことも困難な場合が多く、初めは何を考えているのか全く分かりませんでした。しかし、先生方から、まばたき・目線・「あー」や「うー」といった音の中にも気持ちが込められていると教えていただき、注意深く担当の生徒さんの動きを観察しました。

上手くいかないことも多々ありましたが、その生徒さんが私を見て声を上げて笑ってくれた時、今まで感じたことがない程の喜びを感じました。また、自分で立ち上がったり、車いすをこぐ姿1つひとつに喜びや感動を覚え、“人と接する素晴らしさ”を感じた2日間でした。

もちろん大変なことや困ってしまうことも多く、先生方には最初から最後まで迷惑を掛けっぱなしでしたが、それ以上に喜びを感じ、最後バス乗り場で別れる時はものすごく寂しく思いました。

日々の生活の中では、あれが欲しい、これが食べたいと色々な欲が渦まいていますが、介護等体験で感じた“笑顔が見たい”“少しでも役に立ちたい”という欲は、本来人間が感じるべき気持ちなのではないかと思いました。この7日間で得た充実感は、来年の教育実習だけでなく、社会に出た後も、私をつき動かす原動力になると確信しています。